

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	
A-83C		17-035	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）			
<p style="text-align: center;">Alcohol Consumption and Breast Cancer Risk in Younger Women According to Family History of Breast Cancer and Folate Intake.</p> <p style="text-align: center;">乳癌の家族歴と葉酸摂取から見た若年女性のアルコール摂取量と乳癌の危険性</p>			
執筆者			
Kim HJ, Jung S, Eliassen AH, Chen WY, Willett WC, Cho E.			
掲載誌			
Am J Epidemiol. 2017 Sep 1;186(5):524-531. doi: 10.1093/aje/kwx137.			
キーワード			PMID
乳癌、家族歴、葉酸摂取、女性			28520842
要 旨			
目的：			
<p>アルコール摂取は乳癌の修正可能な危険因子として確立されている。しかしながら 40 歳未満あるいは閉経前の女性でのアルコールと乳癌の危険性との関連は明らかではない。一方、多量のアルコール摂取状況下では、葉酸の吸収および代謝が阻害されるため、葉酸の必要量が増す。低葉酸摂取は癌リスクを増加させることも明らかとされている。本研究では、若年女性におけるアルコール摂取と乳癌の危険性との関連を検討するとともに、この関連が乳癌家族歴の有無や葉酸摂取量の影響を受けるかについて検討した。</p>			
方法：			
<p>1991年に実施されたNurses' Health Study IIの参加者のうち、アルコール摂取データのある27歳から44歳までの93,835人のアメリカ人女性を本研究の対象とし、2011年まで追跡した。アルコール摂取量（非飲酒、0.1-4.9g/day, 5.0-9.9g/day, ≥10g/dayに分類）と葉酸摂取量は4年毎の食事摂取頻度調査で評価し、家族歴の有無および葉酸摂取量による層別化を行い、アルコール摂取量と乳癌発症リスクの関連を尤度比検定により評価した。</p>			
結果：			
<p>1991年から2011年までに確認された乳癌患者は2,866名であった。非飲酒群に比し、アルコール摂取≥10g/day群の乳癌発症ハザード比は1.07 (95%CI: 0.94-1.22)であり、有意な関連は認めなかった。家族歴有無および葉酸摂取量による層別化を行うと、乳癌家族歴有かつ葉酸摂取≤400μg/dayの群で、非飲酒群に比し、アルコール摂取≥10g/day群の乳癌発症ハザード比は1.82 (95%CI: 1.06-3.12)と有意に高かった。家族歴無および家族歴有かつ葉酸摂取≥400μg/dayの群では、アルコール摂取と乳癌発症リスクとの間に有意な関連は認めなかった。</p>			
結論：			
<p>若年女性において、乳癌家族歴があり、かつ葉酸摂取量が少ない群でアルコール摂取は乳癌発症リスクと関連した。乳癌家族歴を有する若年女性においては、アルコール摂取を控えるとともに、葉酸摂取を増加させることで、乳癌発症リスクが減少する可能性が示唆された。</p>			